

# あんげろす

## 善なること

「福祉」という言葉は、時代を象徴し、今日、あらゆる分野で使われている。たとえば「ボランティア」という福祉概念は、いまや、日常生活の内部に深くはいりこんでいる。辞書を開くと「幸福」「幸せ」と同義で、善なること、真なることというニュアンスが結びつく。だから、「福祉悪」という言葉は存在しない。しかし、実際はどうか。虐待が福祉の現場で発生し、福祉の世界の汚職が白日のもとにさらされる。こう考えたらどうか。福祉とは、実は「善」と「悪」(罪)の両契機から成り立っているのだ。福祉を絶対化するから、善意で成り立っている世界に“そんなことはある筈がない”。そうではなく、叡智をもってしっかりと、「福祉」のなかの悪や罪を目措えることが、今日では必要だ。「福祉」を聖域化したり、物神化してはならないと思うのである。

遠藤興一

